

世界農業遺産（G I A H S）とは？

Globally〈世界的に〉 Important〈重要な〉 Agricultural〈農業の〉
Heritage〈遺産〉 Systems〈システム〉

食料の安定確保を目指す国際組織である、国際連合食糧農業機関（FAO）が2002年に開始したプロジェクトで、次世代に受け継がれるべき伝統的な農業・農法とそれに関わって生まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システム（林業及び水産業を含む。）を認定し、その保全と持続的な活用を図るものです。

世界農業遺産認定基準

【申請地域の特徴を評価する5つの認定基準】

1. 食料及び生計の保障	2. 農業生物多様性	3. 地域の伝統的な知識システム	4. 文化、価値観及び社会組織	5. ランドスケープ及びシースケープの特徴
申請する農林水産業システムは、地域コミュニティの食料及び生計の保障に貢献するものであること。	申請する農林水産業システムは、食料及び農業にとって世界的に重要な生物多様性及び遺伝資源が豊富であること。	地域の伝統的な知識システムが、「地域の貴重で伝統的な知識及び慣習」、「独創的な適応技術」及び「生物相、土地、水等の農林水産業を支える天然資源の管理システム」を維持していること。	申請する農林水産業システムには、地域を特徴付ける文化的アイデンティティ、風土、資源管理や食料生産に関連した社会組織が存在すること。	長年にわたる人間と自然との相互作用によって発達してきたランドスケープやシースケープを有すること。

※ランドスケープ：土地の上に農林水産業の営みを展開し、それが呈する一つの地域的まとまり。

※シースケープ：里海であり、沿岸海域で行われる漁業や養殖業等によって形成されるもの。

世界農業遺産認定サイト

世界の農業遺産認定サイト/全62サイト（2022年2月現在）



● 日本/11サイト

● アジア(日本を除く)/30サイト

● ヨーロッパ/7サイト

● アフリカ/10サイト

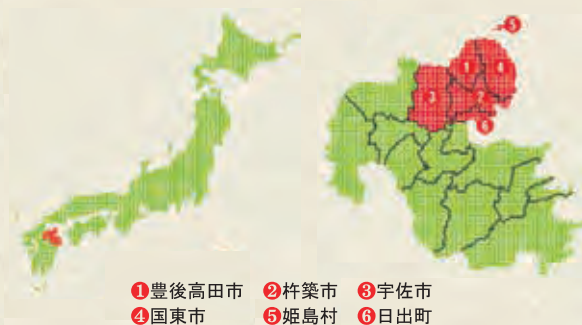
● 中南米/4サイト

クヌギ林とため池によって持続的に維持されている、 日本一の原木しいたけ生産をはじめとする農林水産業システム

降水量が少なく耕作に必要な水が不足する地域に1,200以上のため池を造り、連携させた用水供給システムを確立し、水稻や国内唯一のシチトウイ栽培に計画的に配分している。

また豊富にあるクヌギ林を利用した日本一の原木シイタケ栽培は水田農業を補い、森の保水性を維持し、ため池とともに貴重な給水源となり多様な生態系を育んでいる。

先人たちが営々と作り上げてきたこのクヌギ林とため池による「循環型の農林水産業」の営みが世界的に価値のあるものとして認められた。



- ① 豊後高田市 ② 杵築市 ③ 宇佐市
- ④ 国東市 ⑤ 姫島村 ⑥ 日出町

地形的制約が生んだ「ため池」を
複数連携させた用水供給システム



複数連携式のため池群管理システム

国東市網井地区では、6つのため池を連携させたシステムが江戸時代から今日まで運用されています。最上流にある高雄池(たかおいけ)は水稻の育成後期用として貯水され、それまでの期間は、中流域の3つと下流域の2つのため池が保水し合って給水します。



美迫池(みさこいけ) (国東市)

この地域では、用水供給システムを継続的に運用するための知識と経験の伝承が行われています。ため池に関する操作や管理を委ねられた「池守り(いけもり)」という役割があり、水田の水の受給の平準化と少ない水を効率よく公平に使うための取水管理が行われています。両子山頂から放射状に広がる河川のそれぞれで、このシステムが維持管理されていることが、この地域の水田農業の特徴です。

クヌギの循環システムと食料生産システム

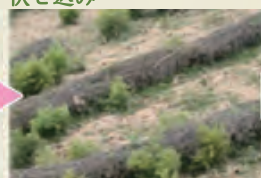


しいたけ生産へ原木を供給

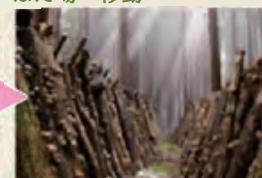
駒打ち



伏せ込み



ほだ場へ移動



発生、採取



クヌギ林の管理と原木しいたけ栽培

クヌギは、伐採しても切り株から萌芽して再生するため、木材資源が循環するという優れた特性を持っています。植林されたクヌギ林は、適正な管理を経て約15年後に原木しいたけ栽培に適したサイズとなります。成長したクヌギは秋に伐採され、しいたけ生産へ供給されます。伐採後のクヌギの切り株からは翌春新芽が萌芽し、成長に必要な日照と養分を確保するため下草刈りが行われます。刈られた下草は、次世代の下草の成長を抑えつつ、ゆっくり分解しながらクヌギの成長を助ける養分となり、さらに、落ち葉やしいたけ栽培で使用を終えた原木も腐植してミネラル豊富な土となり、膨軟な保水層を形成します。また萌芽から2~3年後には、成長を促進するために芽の数を2~3本残すように整理を行い、やがてクヌギ林は伐採から約15年後に原木として利用できる大きさに再生します。